

高岡市埋蔵文化財分布調査概報VIII

—平成8年度 戸出地区西部の遺跡分布調査—

1997年3月

高岡市教育委員会

例 言

1. 本書は、富山県高岡市における埋蔵文化財分布調査の概要報告書である。
2. 当調査は、平成8年度の国庫補助金の交付を受けて、高岡市教育委員会文化財課が実施した。
3. 調査対象地は、戸出地区西部である。
4. 現地調査は、平成8年4月4日から同年11月20日までの実働16日である。
5. 調査関係者は、次のとおりである。

文化財課長；田村靖彦

〔埋蔵文化財係〕

主幹兼係長；石浦正雄

係員；山口辰一

係員；根津羽義

係員；荒井登

6. 本書の執筆は山口が担当した。

調査参加者名簿

現地調査

尾山久美子、新谷晴紀子、寺井久子、谷瀬輝美、星地慶子、中村恭子、深原望
土合良子、中尾賀要子、宮下奈津子、高田えみ子、橋眞理子、道谷美奈子
三國世里子、高岡修子、池守凡子、矢田美千葉

整理

尾山久美子、田辺幸代、道谷美奈子

高岡市埋蔵文化財分布調査概報

目 次

例 言

目 次

I 序 説	1
II 遺跡各説	4
III 遺 物	6
IV 結 語	7

挿 図 目 次

第1図 調査対象地区分図 (1/10万)	2
第2図 調査対象位置図 (1/5万)	3

図 面 目 次

図面1 遺跡地図 全体図 (1/2万5千)	
図面2 遺跡地図 部分図〔1〕(1/1万5千)	
図面3 遺跡地図 部分図〔2〕(1/1万5千)	
図面4 遺物実測図	
図面5 遺物実測図	
図面6 遺物実測図	

図 版 目 次

図版1 遺跡 1. 油屋寺出遺跡（南東）

2. 油屋寺出遺跡（南西）

3. 光明寺十山塚遺跡（南東）

図版2 遺跡 1. 光明寺上山塚遺跡（南西）

2. 戸出伊勢領北遺跡（南東）

3. 戸出伊勢領北遺跡（北西）

図版3 遺跡 1. 戸出後生寺遺跡（南）

2. 戸出後生寺遺跡（北西）

3. 戸出6丁目北遺跡（南西）

図版4 遺跡 1. 戸出6丁目北遺跡（北西）

2. 戸出6丁目東遺跡（南東）

3. 戸出6丁目東遺跡（北西）

図版5 遺跡 1. 戸出氣比神社遺跡（南東）

2. 戸出氣比神社遺跡（北西）

3. 戸出横越北遺跡（南西）

図版6 遺跡 1. 戸出横越北遺跡（北西）

2. 戸出横越南遺跡（北東）

3. 戸出横越南遺跡（南東）

図版7 遺跡 1. 戸出油原遺跡（北）

2. 戸出油原遺跡（南西）

3. 戸出4丁目北遺跡（南東）

図版8 遺跡 1. 戸出4丁目北遺跡（南西）

2. 戸出古戸出遺跡（北東）

3. 戸出古戸出遺跡（北西）

図版9 遺跡 1. 戸出光明寺西遺跡（南東）

2. 戸出光明寺西遺跡（北西）

3. 戸出光明寺東遺跡（南西）

図版10 遺跡 1. 戸出光明寺東遺跡（北西）

2. 戸出六十部遺跡（東）

3. 戸出六十部遺跡（南）

I 序 説

高岡市の位置

高岡市は富山県の北西寄りに位置する。北側は富山湾に臨む。東側は新湊市・大島町・大門町・小杉町と、南側は砺波市・福岡町と接する。また北側は、能登半島の基部東側を占める氷見市である。市域の大部分は、庄川と小矢部川の2大水系によって形成された沖積平野である。これらは、庄川による沖積扇状地部分と、庄川と小矢部川による沖積低地部分とに大別される。砺波平野の北半部と射水平野の西端部に当たる。一方北西部には、西山丘陵と、これに続く二上丘陵が走っている。

西山丘陵埋蔵文化財分布調査

小矢部川左岸一帯の西山・二上地域（西山丘陵・二上丘陵とその周辺の平野部）は、多くの遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の所在地として知られていた。昭和50年代に入り開発工事や、開発計画が増大し、西山・二上地域での発掘調査が実施された。当地域に対する各種の開発行為が進むと共に、高岡市は、西山地区での総合開発を検討していた。このような状況の中で、当地域における遺跡の分布状況や内容の把握が、埋蔵文化財の保護上急務となってきた。以上のことから、高岡市教育委員会では、昭和58年度～昭和62年度の5箇年により、国庫補助を得て「西山丘陵遺跡分布調査事業」を実施するに至った。その成果は各年度ごとに『西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報』I～Vとして刊行している。

高岡市埋蔵文化財分布調査

高岡市は面積15,000haを計る。この内約6,000haは、前述の通り西山丘陵分布調査として、分布調査が完了している地域である。平野部が主体を占める残りの9,000haの地域でも、数々の遺跡が存在し、数々の開発工事がなされている。そのため、西山丘陵地域について、この地域でも国庫補助を得て、分布調査を実施することに至った。

広い地域であるので、3つの地域に大別した。市域の南部に当たる旧戸出町・旧中田町を1つの地域、そして残りの地域は昭和30年代以前に合併した町・村よりなるので、これをJR高岡駅付近を基準に南北に分け旧市南部地域・旧市北部地域と称することにした。それぞれの地域はすべて面積約3,000haを計るものである。そして「旧市南部地域」「旧市北部地域」「戸出・中田地域」の順で調査実施することになった。

旧市南部地域の調査は、平成元年度～平成5年度に実施した。この成果は『高岡市埋蔵文化財分布調査概報』I～Vとして報告している。

旧市北部地域の調査は、平成6年度・平成7年度に実施した。この成果は『高岡市埋蔵文化財分布調査概報』VI・VIIとして報告している。

残りの未調査地区は、戸出町・旧中田町の「戸出・中田地域」である。これらについては、以下のように3地区に区分した。

1. 戸出地区西部：旧戸出町の内、国道156号線より西側
2. 戸出地区東部：旧戸出町の内、国道156号線より東側
3. 中田地区：旧中田町全域

今年度の分布調査

以上のような経緯で、本年度は、「戸出・中田地域」の内、戸出地区西部に於いて分布調査を実施することに至った。

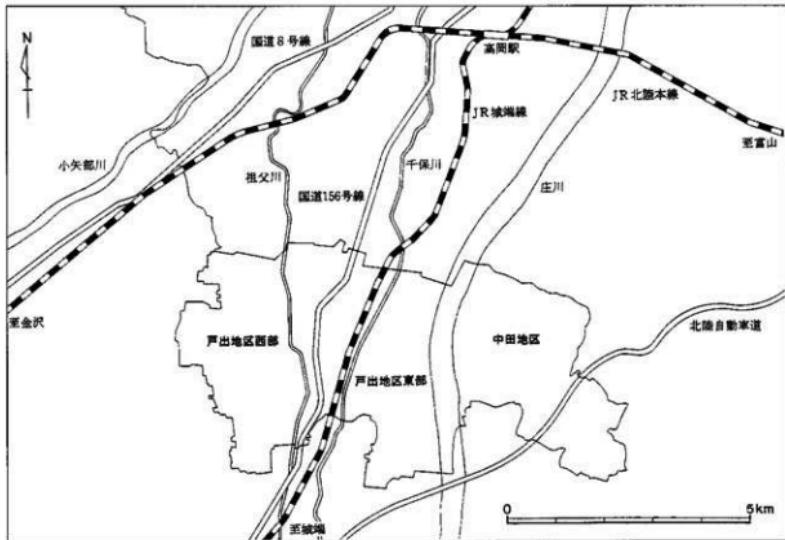
戸出地域の概観

戸出地域は、高岡市街地の南側約8km、砺波平野の北部に位置する。東側は、庄川を挟んで高岡市の中田地区、南側は砺波市、北西側は福岡町と接している。また北側は、高岡市的小勢地区、福田地区、佐野地区である。この地域は、南北約4.5km、東西約5.1kmの略長方形を呈している。標高は約20m~40mを計り、北側が低く、南側が高くなっている。

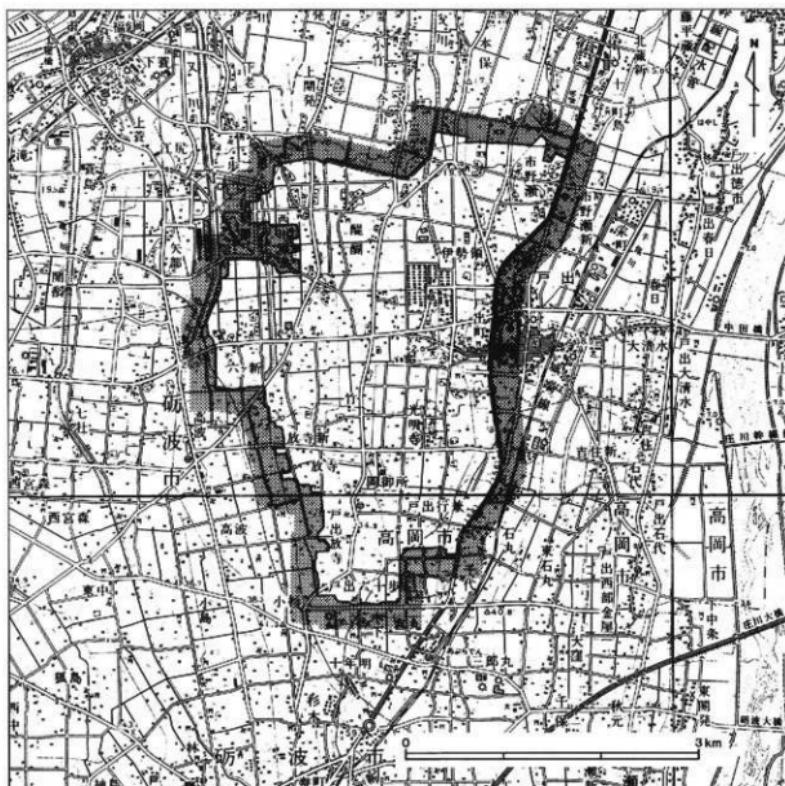
庄川は現在市域の東側に流路が固定している。これは天正13年（1585年）の地震と、江戸時代の加賀藩による工事の結果である。江戸時代前期では、戸出地区中心部の東側を流れ、高岡市街地の木町で小矢部川に合流する千保川筋が本流であった。それ以前は、分流をなして主に北西方向に奔流し、氾濫を繰り返していた。戸山地区も含む砺波平野の大部分は、この庄川の前身の川が形成した扇状地である。

砺波地方の町立ては、山麓の町や村は、中世やこれ以降に始まるとされている。これに対して、平野部のものは近世以降とされている。これは、扇状地を奔流する庄川に影響され、開発が遅れたと解されている。

現在、戸出地区と北東側の富山市、西側の小矢部市とを結ぶ道路として、主要地方道富山戸出小矢部線が通っている。富山市方面から、県境の俱利伽羅峠を越え、加賀方面へ向かう最短ルートである。このルートは近世には、北陸道の本街道乃至脇街道であったものである。中世の交通路については、古代の駅路や近世の官道に比べて、制度として整備されたものがなかったとされている。しかしこのルートについて、中世の北陸道とする見解もある。何れにしろ戸出地域をとおり、富山市方面や小矢部市方面とを結ぶ交通路があつ



第1図 調査対象地区分図 (1/10万)



第2図 調査対象地位置図（1／5万）

たとしてよからう。また北側の高岡方面から、南側の南砺地方の城端や井波を結ぶ南北の道も戸出地域を通り、千保川の水運を利用できる位置にもあり、戸出地域は交通の要所であった。

この東西のルート上に灯油田村が中世にはあり、近世に至り、元和3年（1617年）にこの東側の千保川に沿う戸出野が開発され、新村と市が置かれた。灯油田とは戸出の古称であり、新村の方は戸出と呼ばれ、元の灯油田村は古戸出村となった。近世の戸出村は、近隣の村で晒される麻布の集散地でもあり、千保川を利用しての流木の陳揚地でもあり、加賀藩の御蔵所でもあった。

近代の戸出地域は、西砺波郡に属する、戸出町、是戸村、醍醐村と、東砺波郡に属する北般若村からなり、昭和29年にはこれらが合併して、新たな戸出町となった。昭和41年には高岡市と合併して今日に至っている。

II 遺跡各説

11. 油屋寺田遺跡

以前より、遺跡とされてきた所である。土師器が採集されている。今回の踏査では珠洲、近世陶磁器を採集した。図示した遺物は、図面4-146である。戸山後生寺地区の南西側、戸出須田地区の南東側である。

12. 光明寺土山塚

戸山光明寺地区の南側に位置する。以前より、遺跡とされてきた所である。実態は明確ではないが、塚状の高まりがある。

13. 戸出伊勢領北遺跡

戸出伊勢領の北側に位置する遺物散布地である。遺跡の東側には、一般地方道戸出高岡線が走る。採集された遺物は、土師器、須恵器、珠洲、近世陶磁器である。図示した遺物は、図面5-112, 120, 122, 125, 129である。遺跡の範囲は、南北180m×東西270mである。

14. 戸出後生寺遺跡

戸出後生寺聚落の南側に拡がる遺跡である。遺物は南北に長く散布している。採集された遺物は、土師器、須恵器、珠洲、近世陶磁器である。図示した遺物は、図面4-133, 139, 140、図面5-114である。遺跡の範囲は、南北490m×東西170mである。

15. 戸出6丁目北遺跡

戸出6丁目の住宅団地の北側にある遺物散布地である。散布している範囲は狭い。採集された遺物は、土師器、近世陶磁器である。遺跡の範囲は、南北80m×東西100mである。

16. 戸出6丁目東遺跡

戸出6丁目の住宅団地の東側に沿うように拡がる遺跡であり、西側の住宅団地側へ延びている可能性もある。採集された遺物は、土師器、須恵器、珠洲、近世陶磁器である。図示した図面は、図面4-144、図面5-118である。遺跡の範囲は、南北370m×東西110mである。

17. 戸出氣比神社遺跡

戸山6丁目の住宅団地の西側、油屋の気比神社一帯に遺物が散布している。採集された遺物は、土師器、須恵器、近世陶磁器である。図示した図面は、図面5-117である。遺跡の範囲は、南北290m×東西110mである。

18. 戸出横越北遺跡

北東側を一般地方道横越人溝線、南側を主要地方道富山戸出小矢部線、北西側を一般地方道北高木立野線で囲まれた地区である。遺跡範囲の東側を新又川が流れている。採集された遺物は、土師器、須恵器、近世陶磁器である。遺跡の範囲は、南北160m×東西310mである。

19. 戸出横越南遺跡

主要地方道富山戸出小矢部線の南側の横越地区に位置する。採集された遺物は、土師器、須恵器、珠洲、近世陶磁器である。遺跡の範囲は、南北120m×東西130mである。

20. 戸出油屋遺跡

東西に走る主要地方道富山戸出小矢部線と南北に走る主要地方道高岡砺波線の交差点の北西側に拡がっている遺跡である。採集された遺物は、土師器、須恵器、珠洲、近世陶磁器である。図示した図面は、図面

5 - 107, 108である。遺跡の範囲は、南北200×東西100mである。

21. 戸出4丁目北遺跡

戸出町の中心部を東西に走る旧道の北側に位置している。探集された遺物は、土師器、近世陶磁器である。遺跡の範囲は、南北110m×東西110mである。

22. 戸出古戸出遺跡

戸出神社の南側一帯の遺物散布地である。遺跡範囲の東側を祖父川が流れている。探集された遺物は、土師器、須恵器、珠洲、近世陶磁器である。図示した遺物は、図面4-132, 135、図面5-105, 109, 110, 115, 16, 121, 123である。遺跡の範囲は、南北340m×東西270mである。

23. 戸出光明寺西遺跡

戸出光明寺の北西側に位置している。探集された遺物は、土師器、須恵器、珠洲、近世陶磁器である。図示した遺物は、図面4-130, 142である。遺跡の範囲は、南北210m×東西100mである。

24. 戸出光明寺東遺跡

戸出光明寺の東側に位置している。遺跡範囲の東側は国道156号線である。また西側には祖父川が流れている。探集された遺物は、土師器、須恵器、近世陶磁器、土鍤である。図示した遺物は、図面6-201である。遺跡の範囲は、南北90m×東西130mである。

25. 戸出六十部遺跡

戸出地区の南端、市境に位置している。是戸神社の西側一帯が遺物の散布地である。探集された遺物は、土師器、須恵器、近世陶磁器、土鍤である。図示した遺物は、図面4-141, 148、図面6-201である。遺跡の範囲は、南北200m×東西120mである。

III 遺 物

1. 土器類

土器・陶磁器類である。古代のものはとしては、土師器・須恵器、中世のものとしては、土師器・珠洲・越前、近世のものとしては、越中瀬戸・唐津である。図示していないが、越中瀬戸・唐津以外の近世陶磁器も採集されている。

土師器

皿 101~103。ロクロ使用の101.102と非ロクロの103である。101.102は底部片で底部は糸切りのままである。103は弧状の底部より、外面に稜をなして口縁部が外反するものである。101.102は平安時代後期頃のものか？103は15世紀前半頃のものである。

壺 104。壺の底部で、外面は刷毛目である。古墳時代のものの可能性がある。

須恵器

杯A 105~108。高台の付かない杯である。底部はハラ切りしている。

杯B 109~112。高台付の杯である。高台は109.110のように外下方へ踏ん張るものと、111.112のように、踏ん張らないものがある。

杯 113~120。杯の口縁部である。

杯B蓋 121~125。蓋の口縁部片の121~123と天井部片の124~125である。ただし天井部の中央は欠損している。121は口端部内面にかえりが付く。121が7世紀後葉、122が8世紀前半、123が8世紀後半としてよいと思われる。

壺 126~129。壺類の口縁部片である126~128と、底部片である129である。

珠洲

擂鉢 130。擂鉢の口縁部片である。オロシ目が確認できる。

壺 131~33。壺の底部である。

越前

擂鉢 133。擂鉢の底部である。オロシ目は密である。

越中瀬戸

椀 134~135。

皿 136~145。

擂鉢 150~151。

壺 146~149。

唐津

皿 152。肥前陶器の皿である。

2. 土製品

土鍤が6点採集された。土師質で管状のもので、201~206である。

IV 結 語

今回対象とした地区の遺跡について、現地踏査と資料整理を行った結果、既述のとおりの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の確認（発見）及び再確認をした。今回の対象地での、周知の埋蔵文化財包蔵地は2箇所であった。これは、1972年発行の『富山県遺跡地図』、及び1993年発行の『富山県埋蔵文化財包蔵地図』で示されているものであり、この間、埋蔵文化財包蔵地の新規の発見や確認はなかったことにもなる。今回の調査及び本報告書において、新たに埋蔵文化財包蔵地とした遺跡は13箇所である。既知の2箇所と合わせて、当地域では15箇所の埋蔵文化財包蔵地が所在していることになる。

名 称	種 類	時 代	備 考
11. 油屋寺田遺跡	一般包蔵地	古代～近世？	既知、県遺跡番号202190
12. 光明寺土山塚	塚	近世？	既知、県遺跡番号202191
13. 戸出伊勢領北遺跡	一般包蔵地	古代～近世	新規
14. 戸出後生寺遺跡	一般包蔵地	古代～近世	新規
15. 戸出6丁目北遺跡	一般包蔵地	古代～近世	新規
16. 戸出6丁目東遺跡	一般包蔵地	古代～近世	新規
17. 戸出氣比神社遺跡	一般包蔵地	古代～近世	新規
18. 戸出横越北遺跡	一般包蔵地	古代～近世	新規
19. 戸出横越南遺跡	一般包蔵地	古代～近世	新規
20. 戸出油屋遺跡	一般包蔵地	古代～近世	新規
21. 戸出4丁目北遺跡	一般包蔵地	古代～近世	新規
22. 戸出古戸出遺跡	一般包蔵地	古代～近世	新規
23. 戸出光明寺西遺跡	一般包蔵地	古代～近世	新規
24. 戸出光明寺東遺跡	一般包蔵地	古代～近世	新規
25. 戸出六十部遺跡	一般包蔵地	古代～近世	新規

付表 遺跡一覧表

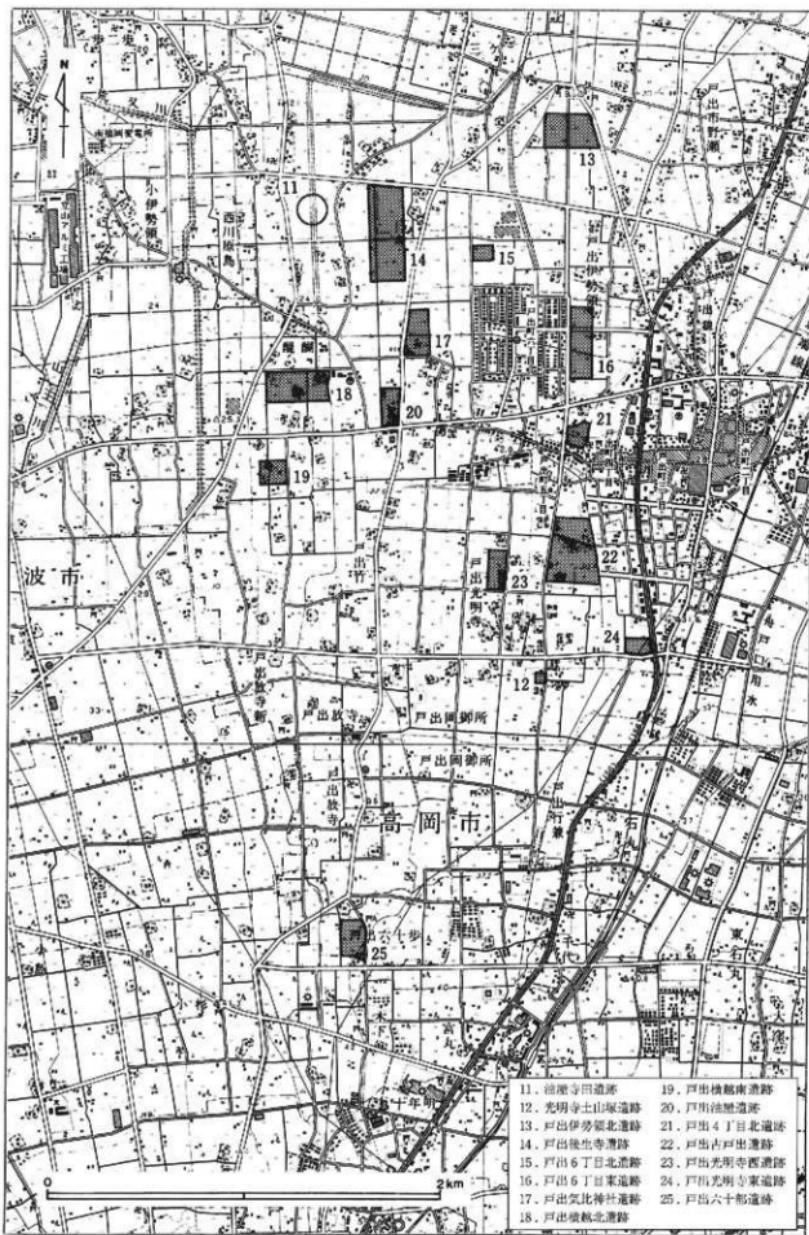
15箇所の遺跡の内訳は、1箇所が「塚」であり、他の14箇所は一般包蔵地である。時代的には、奈良・平安時代から中世のものが大部分を占めると思われるが、弥生時代や古墳時代に遡る可能性も否定しきれない。戸出地区の遺跡は、発掘調査例がなく、具体的な内容は全く不明な地区と言える。

参考文献

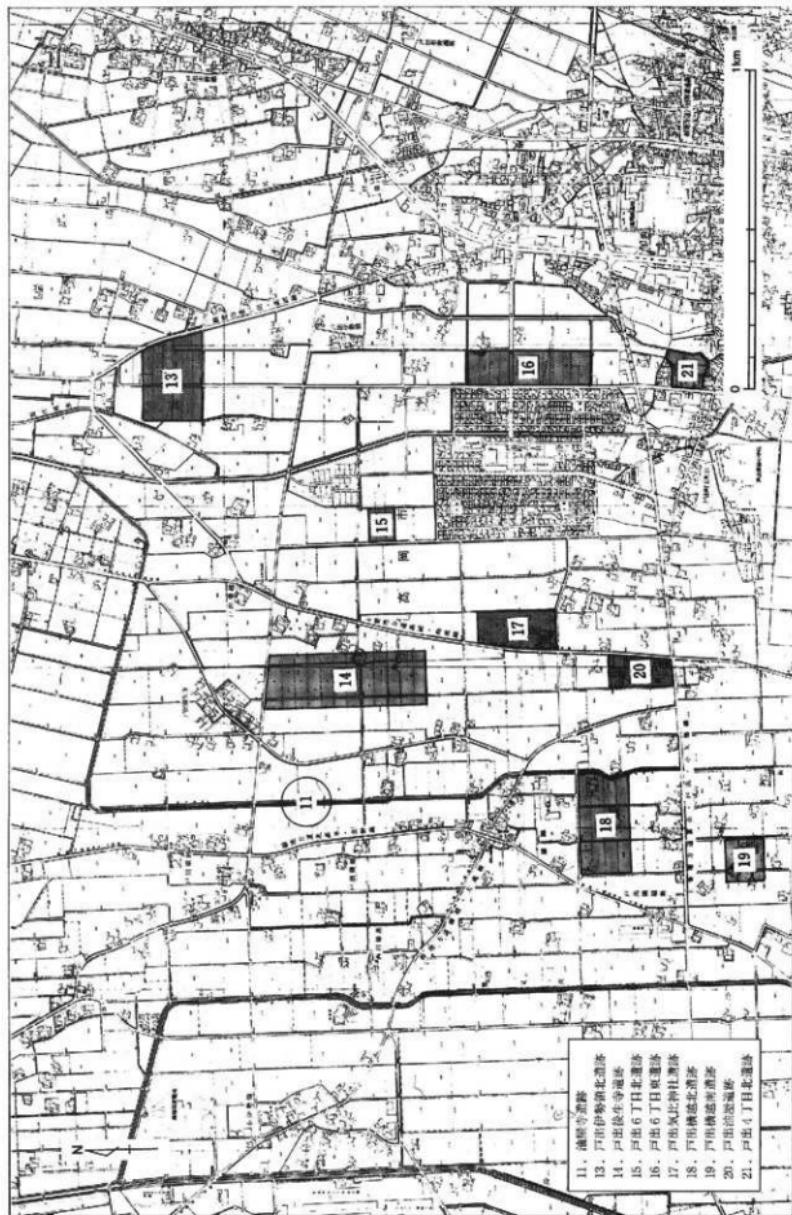
- 成田忠孝他 1972 『戸出町史』(高岡戸出町史編纂委員会) 高岡戸出町史刊行委員会
坂井誠一他 1974 『角川日本地名大辞典16-富山県』 角川書店
古岡英明他 1991 『たかおか歴史との出会い』(高岡市市政100年記念誌編集委員会) 高岡市
高源重雄他 1994 『日本歴史地名大系第16巻-富山県の地名』 平凡社
- 富山県教育委員会 1972 『富山県遺跡地図』
富山県教育委員会 1993 『富山県埋蔵文化財包蔵地図』

図 面

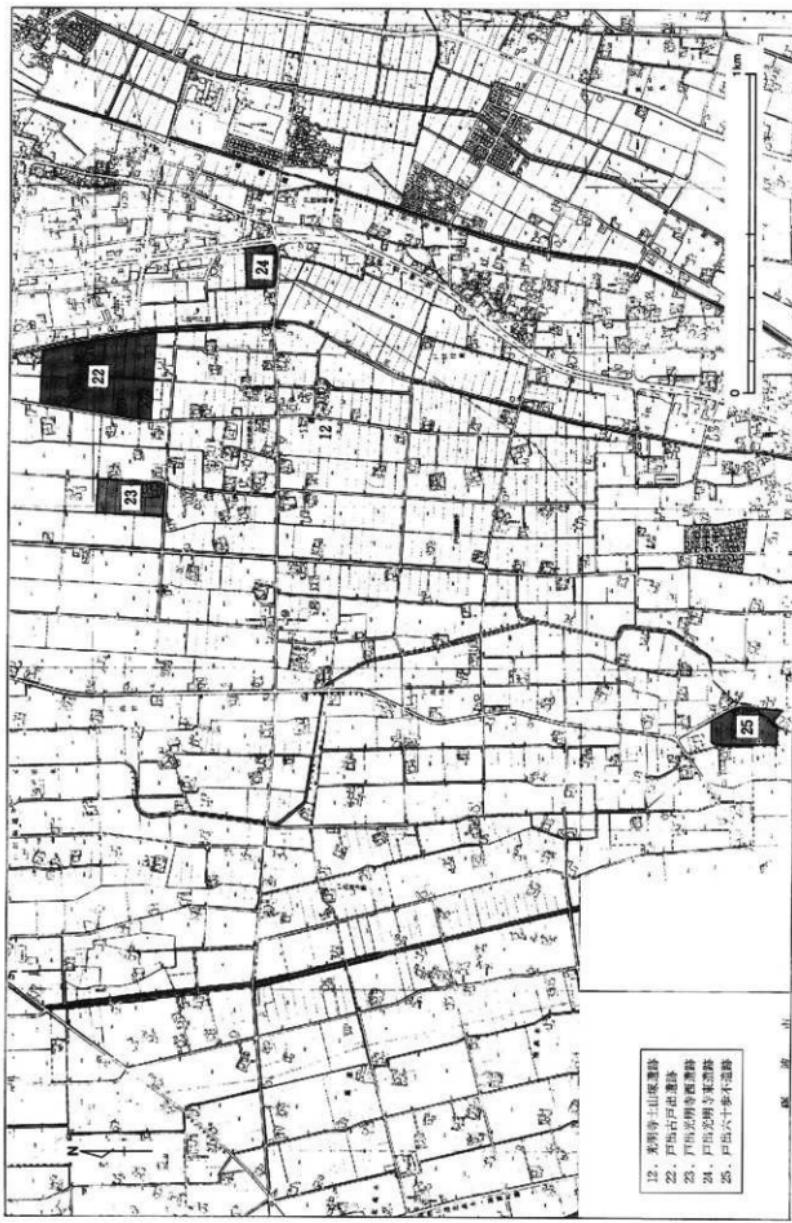
図面一 遺跡地図 全体図

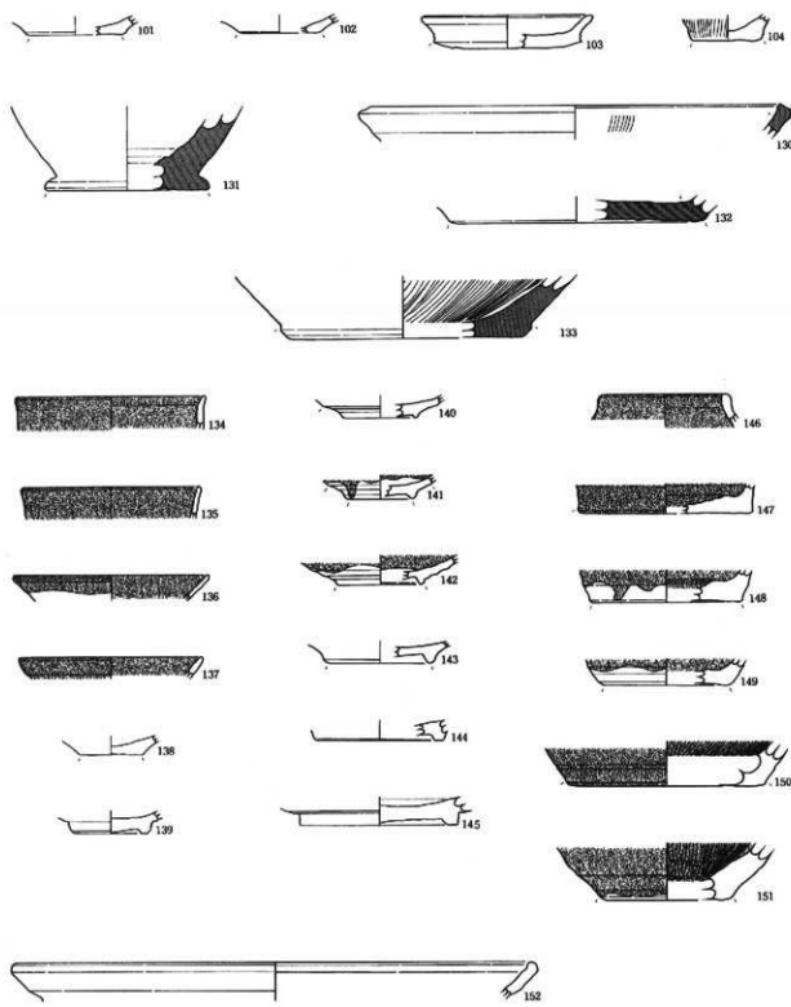


図面一 遺跡地図 部分図 (1)



図面二 遺跡地図 部分図 (1)



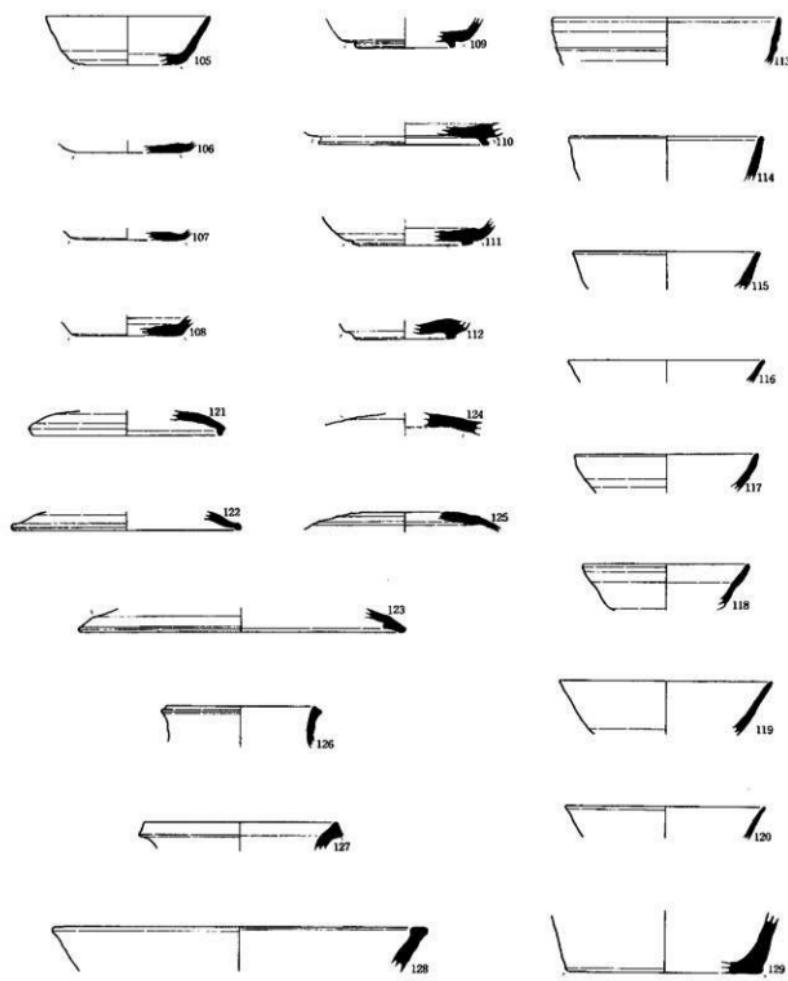


0 5 10cm

土師器；101～104，珠潤；130～133，越中漁戸；134～151，唐津；152

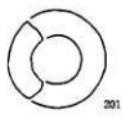
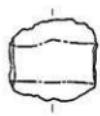
縮尺 1 / 3

図面五 遺物実測図



須惠器：105～129

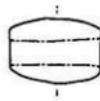
縮尺 1／3



201



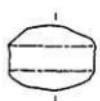
204



202



205



203



206



図 版



1. 油屋寺田遺跡
(南東)



2. 油屋寺田遺跡
(南西)



3. 光明寺土山塚
遺跡 (南東)



1. 光明寺土山塚
遺跡（南西）



2. 戸出伊勢領北
遺跡（南東）



3. 戸出伊勢領北
遺跡（北西）



1. 戸出後生寺遺跡
(南)



2. 戸出後生寺遺跡
(北西)



3. 戸出6丁目北
遺跡(南西)



1. 戸出6丁目北
遺跡（北西）



2. 戸出6丁目東
遺跡（南東）



3. 戸出6丁目東
遺跡（北西）



1. 戸出氣比神社
遺跡（南東）



2. 戸出氣比神社
遺跡（北西）



3. 戸出横越北遺跡
(南西)



1. 戸出横越北遺跡
(北西)



2. 戸出横越北遺跡
(北東)



3. 戸出横越北遺跡
(南東)



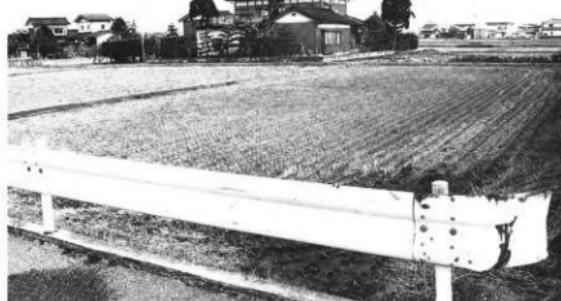
1. 戸出油屋遺跡
(北)



2. 戸出油屋遺跡
(南西)



3. 戸出4丁目北
遺跡 (南東)



1. 戸出4丁目北
遺跡（南東）



2. 戸出古戸出遺跡
(北東)



3. 戸出古戸出遺跡
(北西)



1. 戸出光明寺西
遺跡（南東）



2. 戸出光明寺西
遺跡（北西）



3. 戸出光明寺東
遺跡（南西）



1. 戸出光明寺東
遺跡（北西）



2. 戸出六十部遺跡
(東)



3. 戸出六十部遺跡
(南)

高岡市埋蔵文化財調査概報集37冊

高岡市埋蔵文化財分布調査概報

発行者 高岡市教育委員会

富山県高岡市伝法小路7番50号

1997年3月31日

印刷所 小間印刷株式会社

富山県高岡市利屋町3